



上毛かるた県大会個人の部で優勝
本間 夏菜さん・10歳
紅雲町二丁目

相手の札を取ったときが最高です

第61回上毛かるた競技県大会小学生低学年個人の部で初優勝に輝いた。大会は地区予選を勝ち抜いた330人が出場し熱戦を繰り広げた。

「会場は観客が多いので、最初は緊張しちゃったの。だから、気持ちが高ぶらないように心掛けて、優勝するぞという気持ちを持って戦いました。その願いがかなってうれしいです」

個人戦は、44枚の札を対戦相手と一緒に22枚ずつに分けて並べる。その並べた札の場所を3分間で記憶していく。

「相手の陣地の札を取ったとき、やったという感じです。それがたまらなく気持ちいいんだ」

4歳年上の姉の影響で上毛かるたを始めた。また、自治会の影響も大きい。紅雲町二丁目は育成会が中心

となって上毛かるたを広める活動をしている。娯楽だけでなく競技としても楽しみ、毎年大会の上位に住民が名を連ねている。大会の2カ月前から、ほぼ毎日1時間半の練習をこなしてきた。

「個人戦は全部で8試合。決勝では同点でしたが、『つる舞う形の群馬県』の札を持っていたので勝てたんです。来年は高学年の部になりませんが、また、優勝を目指します」

現在、桃井小の4年生。早くも来年を見据える姿に意志の強さを感じられる。

「家ではチワワを飼っているの。名前はチャチャマル。可愛くて可愛くて。大きくなったら、獣医になりたいな」

心を一つに楽しいステージ

児童文化センターの合唱団とジュニアオーケストラの発表会を2月10日、市民文化会館で行いました。子どもたちが、この日のために練習を重ねてきた成果を披露。合唱、弦楽合奏、ミュージカルの3部構成で、夢と希望に満ちたステージを作り上げました。



100回記念で大盛況

2月16日、前橋テルサのロビーコンサートが記念すべき100回目を迎えました。チェロ奏者のレオニード・グルチンさんが多くの名曲を演奏。訪れた観客250人は、響き渡る音色に酔いしれ、盛大な拍手を送っていました。

映像制作の支援が始まる

2月11日、前橋プラザ元気21でフィルム・コミッション設立記念上映会を開催しました。本市出身で映画「呪怨」の監督で知られる清水崇さんを迎え、映画にまつわる講話も、多くの人でにぎわいました。



アドバイス受け手際よく

市・県民税などの申告納税相談が、2月18日から市役所市民税課、大胡・宮城・粕川の各支所で始まりました。朝から多くの人を訪れた窓口では、職員にアドバイスを受けながら手際よく書類に記入する人も。申告の受け付けは3月17日までです。



若い芽のポエム

昨年度行われた第10回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

★入選 弟のこと

桂菅東小2年
後藤 唯香さん

わたしは弟のことを、けんちゃん
とよんでいます。

けんちゃんはたまにママのおっぱいをかじります。

けんちゃんは、あしをつけて前にすすみます。

けんちゃんは、おふろのときにはママにだっこされるとないちゃいます。

そしてわたしにたすけをもとめます。

きのうはおかあさんがよるおでかけにいきました。

けんちゃんはねむくなったらわたしのところに来て、てをだしました。

わたしはけんちゃんをだっこしてあげました。

しばらくたったらけんちゃんはね

ちゃいました。
おもたかったけど、かわいかったです。

★入選 がっしゆく

荒牧小4年
山上 龍征さん

長野にがっしゆくに行った。

最後の日
家族が見にきてくれた。

チームの友達がシュートを打った。
キーパーがはじいた。

ぼくは、こぼれたボールをシュートした。

入った。
家族の方を見た。

ぼくの方をじっと見えた。
家に帰っておすしを食べた。

温かい味がした。